



LS研究委員会

研究分科会／短期研究分科会

LS研究委員会では、2022年度研究分科会／短期研究分科会の参加者を募集いたします。LS研究委員会のスローガン「Challenging Innovation」のもと、時代に即した、研究分科会20テーマ、短期研究分科会3テーマを用意しました。多数のお申し込みをお待ちしております。

参加者募集中

※2022年度の「研究分科会のご案内」は以下をご参照ください。

- 研究分科会
<https://jp.fujitsu.com/family/lksen/activity/work-group/22/entry/>
- 短期研究分科会
<https://jp.fujitsu.com/family/lksen/activity/s-work-group/22/entry/>

研究分科会

4月から翌年3月まで1年間
原則月1回実施

「先進的ICT適用」や「情報システム部門が抱える課題解決」などについて、問題意識を持ったメンバーが集まり、Give & Takeの精神で共同研究を行い、成果を創出し、実ビジネスに活かすヒントを得る活動です。1年間の研究活動を通じ、今後の情報システム部門を担う人材育成および異業種・異文化間のネットワーキングも目的としています。

カテゴリ	No.	研究分科会テーマ
ICT戦略／人材育成	1	DX推進におけるデジタル人材確保施策の研究
	2	ICT・デジタル化レベルの把握と教育の効果把握についての研究
	3	ITリテラシー ^{*1} 向上における情報システム部門の役割についての研究 (IT難民を救え!)
	4	DX推進のための、内製化復活のメリットとデメリットについての研究
	5	システム部門によるSCM ^{*2} 分野における環境貢献戦略の研究
	6	心理的安全性と成果を両立させる全体最適のプロジェクトマネジメントの研究
技術／技法	7	データドリブン経営 ^{*3} の実現に向けた全社データガバナンスとクラウド型データ活用基盤技術の研究
	8	アジャイル開発技法の評価に関する研究
	9	コンテナを適用した設計・開発・運用技法の研究
	10	DX実現に向けたローコード開発 ^{*4} プラットフォームの選定・導入と開発技法の研究
	11	AIシステムの倫理的な課題を分析・対処するシステム開発運用手法の研究
	12	AIを活用した熟練者技術/スキルの伝承に関する研究
	13	テレワークによるリモート開発手法の研究
管理／運用	14	業務サービスの正常稼働担保に関する方法論の研究
	15	既存システムの運用業務へのAI技術活用の調査・研究
	16	テレワーク導入後の環境変化に適應した新たな企業内サポートデスクに関する研究
	17	ニューノーマルにおけるBCM/BCP ^{*5} 見直しに関する研究
	18	ハイブリッドクラウド ^{*6} 環境におけるセキュリティ技術・運用に関する研究
	19	クラウドにおけるシステム運用スキルセットの研究
	20	ハイブリッドクラウド ^{*6} 環境におけるデータの可用性・整合性に関する運用手法の研究

(上記テーマ名は変更される可能性があります。正式なご案内をご覧ください)

^{*1}:通信・ネットワーク・セキュリティなど、ITにひも付く要素を理解する能力、操作する能力 ^{*2}:組織や企業をまわいでサプライチェーン(供給連鎖)を管理し、生産や販売の効率化を図る経営手法
^{*3}:データドリブンの手法を用いてデータを収集・分析した結果をもとに企業経営を行うこと ^{*4}:可能な限りソースコードを書かず、アプリケーションを迅速に開発する手法やその支援ツール
^{*5}:災害等でも事業を継続できる計画(BCP)を管理、運用すること(BCM) ^{*6}:パブリッククラウドやプライベートクラウド、物理サーバーなどいくつかのサービスを組み合わせて使うクラウド
 注)本資料中に記述した製品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

過去の研究成果は▶ <https://jp.fujitsu.com/family/lksen/activity/work-group/> 研究分科会タブの「過去の活動内容」をご覧ください。

短期研究分科会

5月から10月まで半年間
原則月1回実施

タイムリーで実践的、先進的なテーマに対し、市場動向の調査や企業の取り組み状況などの情報を共有します。参加メンバーによる意見交換、調査、検討に重点を置き、調査報告書をまとめた後、成果報告会にて活動結果を発表します。1年間の研究分科会と同様に、富士通グループよりテクニカルアドバイザーが活動をサポートします。

No.	短期研究分科会テーマ
1	変化に柔軟・迅速に対応できる組織への変革の研究
2	プログラミング言語新潮流の研究
3	セキュリティインテリジェンス・サービス ^{*7} の調査研究(導入と運用)

(上記のテーマ名は変更される可能性があります。正式なご案内をご覧ください)

^{*7}: 複数の情報源から既存または新たに発生した脅威と、脅威因子に関する未加工のデータを収集する

過去の研究成果は▶
<https://jp.fujitsu.com/family/lksen/activity/s-work-group/>
 短期研究分科会タブの「過去の活動内容」をご覧ください。

LS研セミナーは、先進的なシステム・ビジネスの事例紹介を中心に、情報システムの企画／運用やICT戦略についての情報交換を行う場です。今年度もオンライン開催となりましたが、多くの方にご参加をいただきました。

短期研究分科会成果報告会は、半年間研究を続けてきた成果を報告する場です。今年度もオンライン開催となりました。

短期研究分科会 成果報告会

2021年 11月24日(水)

於：オンライン開催

2021年度の短期研究分科会は、5月から新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインで開催をしてきました。この半年間で研究を進め本成果報告会となりました。

今年度は、研究のテーマに関する特別講演も併せて行い、多くの方にご参加をいただきました。

特別講演
テーマ

「なぜプロセスマイニングが重要なのか」
～欧米大手がこぞって取り組む理由とは？～

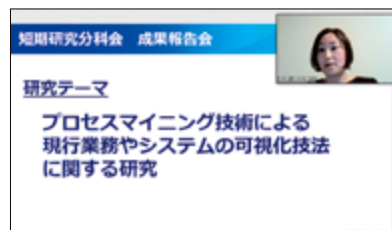
▶講演者 株式会社インプレス 編集主幹 田口 潤 氏

短期
研究分科会
テーマ

「プロセスマイニング技術
による現行業務やシステムの
可視化技法に関する研究」

▶発表者

MS & ADシステムズ株式会社
高安 理江 氏



参加者コメント

- 技術に対し詳しくなれたことに加え、コロナ禍で他社の方と協力して成果物を作成する手法などが大変参考になった。
- 本議題に関わる部分で、他社様がどのような課題を抱え、どのような対策を立てているのかをお聞きすることができた。
- 短い期間で、テーマに関する技術について学び、理解を深めることができ、大変満足です。
- 課題抽出から課題解決までの一連の活動は、勉強になった。

第2回LS研セミナー (年3回実施)

2021年 11月17日(水)

於：オンライン開催

第2回
テーマ

「DX戦略としてのデジタルマーケティングを成功に導く」

お客様や富士通の事例紹介を中心に最新の情報提供を行う「LS研セミナー」。第1回は、7月21日にオンラインにて「ICTで貢献するSDGs」をテーマで開催しました。

第2回の今回は、11月17日にオンラインにて上記テーマで開催しました。デジタル化が加速する昨今、デジタルマーケティングに注目が集まっています。日本を代表するデジタルマーケターをお呼びし、なぜ今デジタルマーケティングなのか、データを活かしたマーケティングの考え方やノウハウをご講演いただきました。そして、2021年度LS研情報化調査の結果報告を行いました。

第3回は、2022年2月22日に開催予定です。



参加者コメント

- デジタルマーケティングの実践、活用のうえで知っておくべきことがコンパクトにまとめられており、これから自己学習を進めるうえでの足掛かりとなった。
- DXについて社外の方のお話が聞けた。
- DXに関する知識が深まった。
- 現場の実情を踏まえた取り組みのご紹介であり、自らのコンサル業務を進めるうえで非常に参考になった。

情報化調査

LS研ICT白書

会員企業におけるICT活用に関する調査

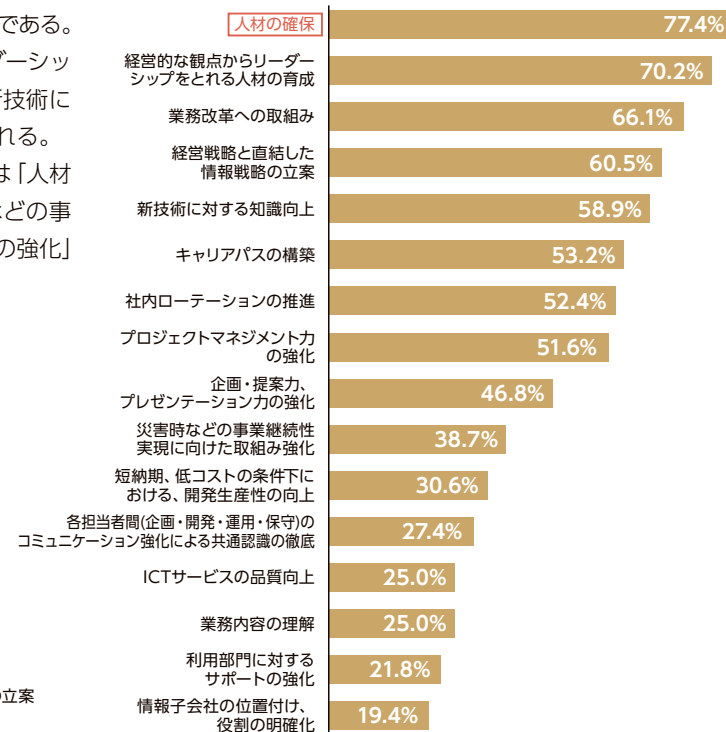
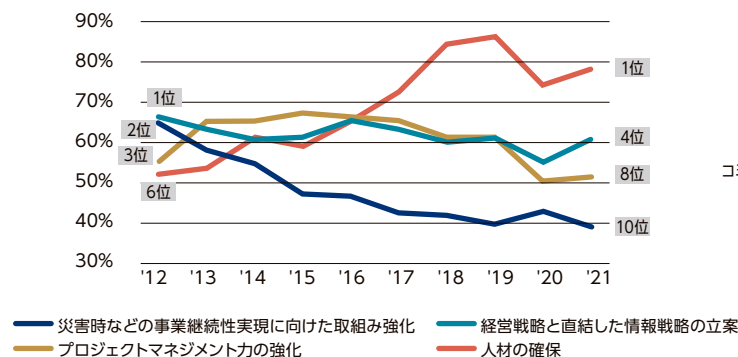
LS研ICT白書は、LS研究委員会の会員企業におけるICTの活用の現状と今後を把握することを目的に調査した報告書です。

Give & Takeの精神に則り、調査にご協力いただいた会員のみ配付しております。2021年度も多くの会員の方々にご回答いただきました。ご協力に感謝申し上げます。

今年度のICT白書では、例年の情報システム部門の定点観測に加え、トピックテーマとして、「DXによる事業変革の進展状況」を取り上げて、調査・分析を実施しました。

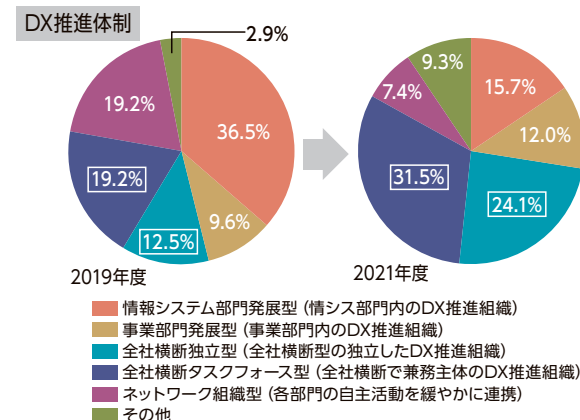
情報システム部門の課題

- 情報システム部門の課題は、2017年以降連続で、「人材の確保」が最多である。
- 昨年度と比べると、「業務改革への取組み」や「経営的な観点からリーダーシップをとれる人材の育成」を課題に掲げる回答が増えている。一方、「新技術に対する知識向上」は回答率が下がり、改善が進んでいるものと考えられる。
- 約10年間のスパンで情報システム部門の課題の推移を見ると、近年は「人材の確保」が慢性的な課題になっていることがわかる。また、「災害時などの事業継続性実現に向けた取組み強化」や「プロジェクトマネジメント力の強化」などは、重み付けが相対的に下がっている。



DXによる事業変革の進展状況 ～環境の変化～

- 2019年度と今年度の調査を比較すると、最近2年間でDXに対する会員の取組みは大きく進んでいることがわかる。
 - DXに取り組んでいる(PoCを除く)会員は、24.4%から、48.3%に倍増した。
 - DXの推進体制は、情報システム部門内に推進組織を設ける体制や、各部門の自主活動を緩やかに連携する体制が半減し、全社横断の推進体制にシフトした。
 - 投資意思決定だけでなく、経営層がDXの企画検討や評価、社内評価、プロジェクト管理などに関与することが増えた。
 - COVID-19対応の影響により、「業務環境のオンライン化」、「文書の電子化」、「業務プロセスのデジタル化」、「社内のコミュニケーションやコラボレーション活性化」などの領域で、社内慣習や企業(組織)文化に大きな変化が生じている。



DXによる事業変革の進展状況 ～取組み事例の分析～

これまでに取り組まれたDX施策の特徴

- 「従業員の生産性向上」や「社内外のコミュニケーション・コラボレーションの円滑化」といった組織の生産性向上に関する施策が先行して一定の効果을上げています。
- まだ大きな成果は上がっていないものの、「新たな知見の探索」、「品質管理の高度化」、「新たな製品・サービスの開発による収益拡大」、「顧客や市場の分析」、「予測の精度向上」など、情報活用による新知見の獲得や業務の高度化に関する施策が進んでいる。
- 全体的に、「分かりやすさ」、「早さ」、「柔軟性」といったコンセプトが意識され、社内で入手できるデータを活用し、クラウドをはじめとした様々なテクノロジーの組合せによってDXを実現しようとする傾向が見られる。

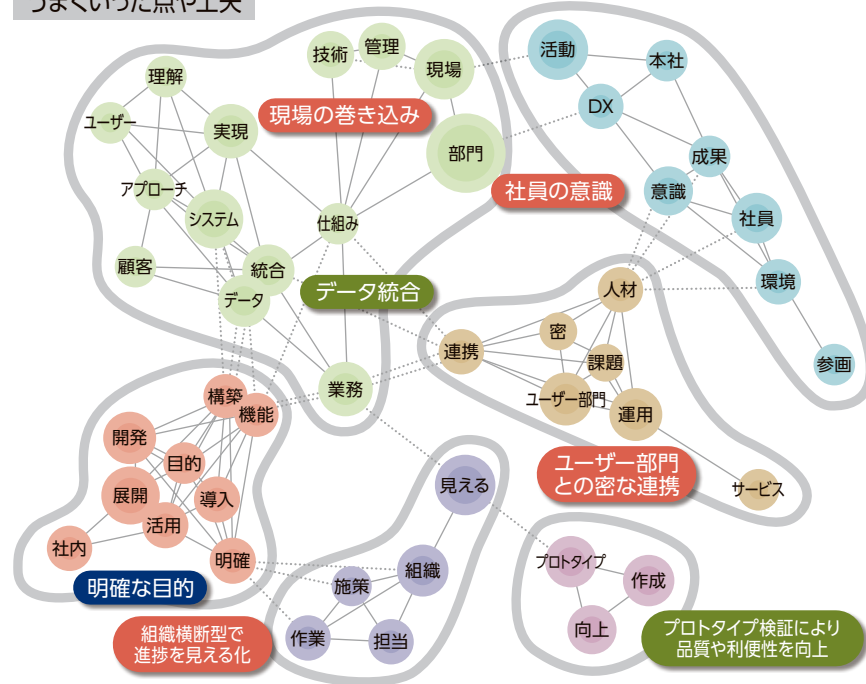
これまでに取り組まれたDX施策から見えるもの

- DX推進のための組織変革や経営層の変化を背景に、現場を巻き込んだ組織横断で検討や進捗確認が進んでおり、このような社員の意識を高める取組みなどがDX施策の推進に好影響を与えていると推測される。
- DXの成功に必要なとされる下記の3つの観点で見ると、
 - **組織戦略**：経営者、IT部門、業務部門の三者が互いに対話し、共通認識をもつ。
 - **事業戦略**：DXの正の部分と負の部分の評価し、投資バランスを予め決めておく。
 - **推進戦略**：取組みを社内外に派生させていくため、アジャイル的にスピード感をもって進める。

「組織戦略」はある程度進んできており、現在は主に「事業戦略」や「推進戦略」といった各施策の成果や方法論が課題になっていると考えられる。

- 事業戦略では、予め目的を設定した後も、継続的に事業目線での進捗管理と共有を行うことで社内の理解を得る工夫が、推進戦略では、海外を含む他者事例の収集や自社の弱みを補う社外パートナーとの連携、現場目線で課題を1つずつ潰していく地道な活動などが必要と思われる。

うまくいった点や工夫



うまくいかなかった点や課題

